

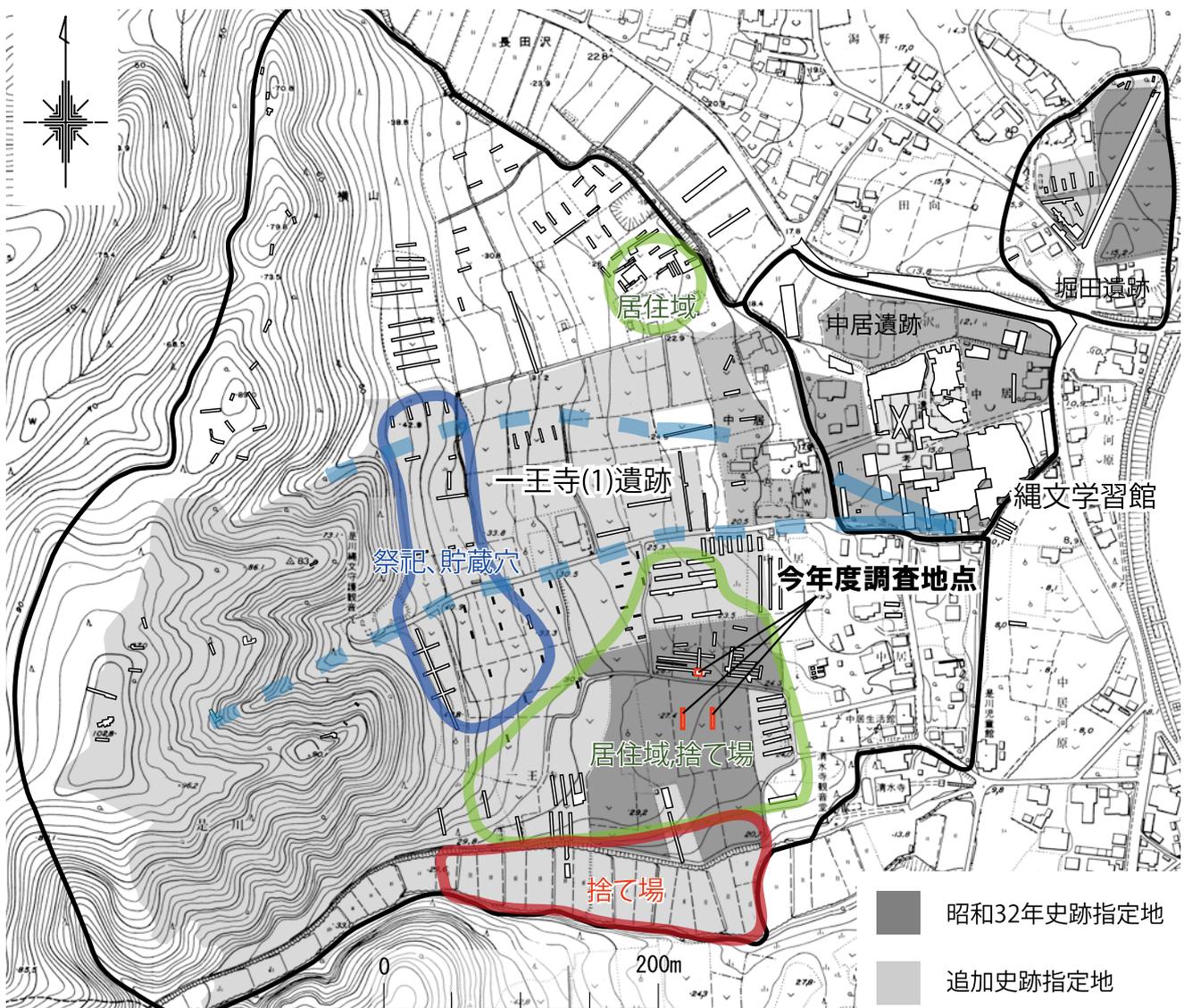
平成 28 年度 いちおうじ 一王寺 (1) 遺跡 現地説明会

平成 28 年 10 月 22 日 (土) 10 : 00 から
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

【遺跡の概要】

本遺跡は八戸市の中心部から南へ約 4km に位置し、にいだ 新井田川の左岸に立地しています。標高 70 ~ 100m の丘陵と、標高 18 ~ 44m の新井田川へ向かう緩斜地にかけて広がっています。遺跡の南端は寺ノ沢とてらのさわ 呼ばれる東西方向の沢地、北から北東端には、北西から南東に走る長田沢ながたさわがあります。遺跡の総面積は 32 万 6 千 m² です。

縄文時代ぜんき前期からちゅうき中期 (今から約 6,000 年 ~ 4,000 年前) のえんとうどきぶんか 円筒土器文化期を中心とした大規模な集落 (ムラ) であり、昭和 32 年 (1957) に中居遺跡・堀田遺跡とともに「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定されています。八戸市では、平成 7 年 (1995) から 22 年 (2010) まで範囲・内容確認のための発掘調査を行ってきました。その結果、一王寺 (1) 遺跡と堀田遺跡においてその内容が確定し、平成 25 年に両遺跡の重要な範囲の追加指定が決定しました。



第 1 図 史跡是川石器時代遺跡全体図

平成 26 年度からは、昭和 32 年の史跡指定地内の内容確認調査を開始し、85 年前の発掘調査記録にある「一王寺貝塚」の場所を特定しました。また、貝塚を確認した不整形の 2 つの攪乱坑 (SX1、SX2) が、過去の調査記録及び図面より、ひとつが昭和 4 年の大山史前学研究所による発掘調査の B 地点、もうひとつが大正 15 年の長谷部言人・山内清男による C 地点の発掘調査坑である可能性が高いことがわかりました。

【調査の目的】

①「一王寺貝塚」の内容確認調査

平成 26 年度に確認した旧攪乱坑を利用し、新規の掘削面積を必要最低限に留め、貝層の形成状況を明らかにするための内容確認調査を行いました。

②昭和 32 年史跡指定地南側の内容確認調査

昭和 32 年の史跡指定範囲に 2m × 15m のトレンチを 2 本設定し、どのような遺構 (竪穴住居跡や土坑など) や遺物 (縄文土器や石器など) が存在するのかが確認しました。

【調査要項】

遺跡所在地：①八戸市大字是川字中居 28-2、②同字一王寺 2-3

調査目的：史跡整備のための内容確認調査

調査期間：平成 28 年 8 月 22 日～10 月 31 日 (予定)

調査面積：約 61㎡

調査担当者：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

検出遺構：①盛土遺構 (縄文時代中期)、貝塚 (縄文時代前期)

②竪穴住居跡 3 棟、土坑 2 基、集石遺構 1 基、ピット数基

出土遺物：縄文土器、土製品 (土偶・ミニチュア土器) 石器 (石鏃・石槍・剥片石器・磨製石斧・半円状扁平打製石器など)、骨角器 (骨針・装身具など) 動物遺存体 (シカ・イルカ、カツオ・スズキ・マグロ・サメ、イガイ・アサリ・アワビなど)、植物遺存体 (トチ・コナラ)

【調査成果】

①「一王寺貝塚」の調査成果

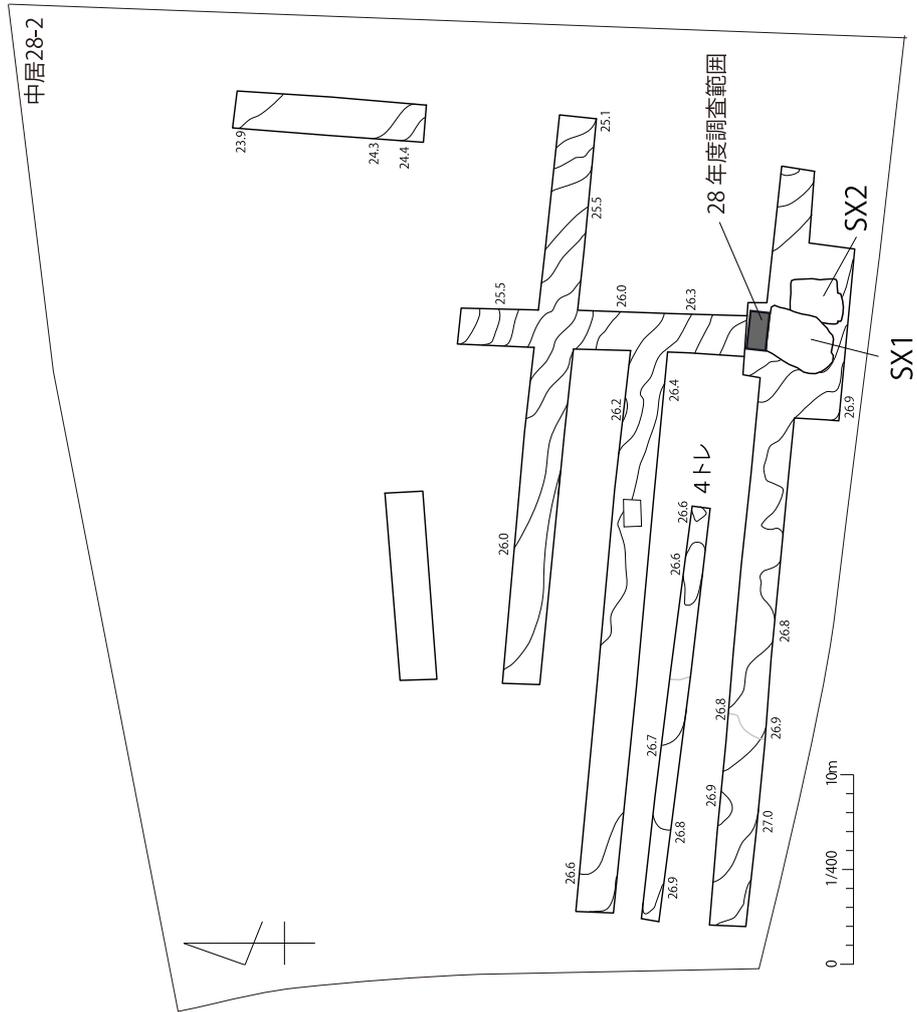
一王寺貝塚の調査地点は、縄文時代中期の盛土遺構 (今から約 4,900 ～ 5,100 年前) と縄文時代前期の貝層 (今から約 5,200 から 5,800 年前) に大きく分けられます。今回の調査で、中期の盛土遺構からは縄文土器や石器のほか、たくさんのシカの骨が出土しました。一方、前期の貝層からは縄文土器や石器のほか、シカの骨と一緒に魚の骨 (カツオ・マグロ・スズキ・サメなど)、貝がら (イガイ・アサリ・アワビなど) など海の幸がたくさん出土することがわかりました。このことから一王寺遺跡の縄文人たちの生活が、縄文時代前期の狩猟・漁労を共に行うものから、中期にはなんらかの理由で漁労をやめ、狩猟を中心としたものに移り変わったとみられます。

また本遺跡の縄文人は、カツオやマグロなど、外洋性の魚を手に入れて食べていたことがわかりました。彼らは舟で新井田川をつたい海へ出て、漁労を行っていたのかもしれない。

②昭和 32 年史跡指定地南側の内容確認調査

本地点では縄文時代中期後葉 (今から約 4,000 ～ 4,500 年前) の竪穴住居跡 3 棟がみつかり、昭和 32 年の史跡指定地に中期後葉の集落 (ムラ) の跡が広がることを初めて確認することができました。さらに住居跡の近くから、ほぼ同じ時期の集石遺構 (祭祀遺構) もみつかり、当時の集落の様子を考えるうえで重要な成果を得られました。

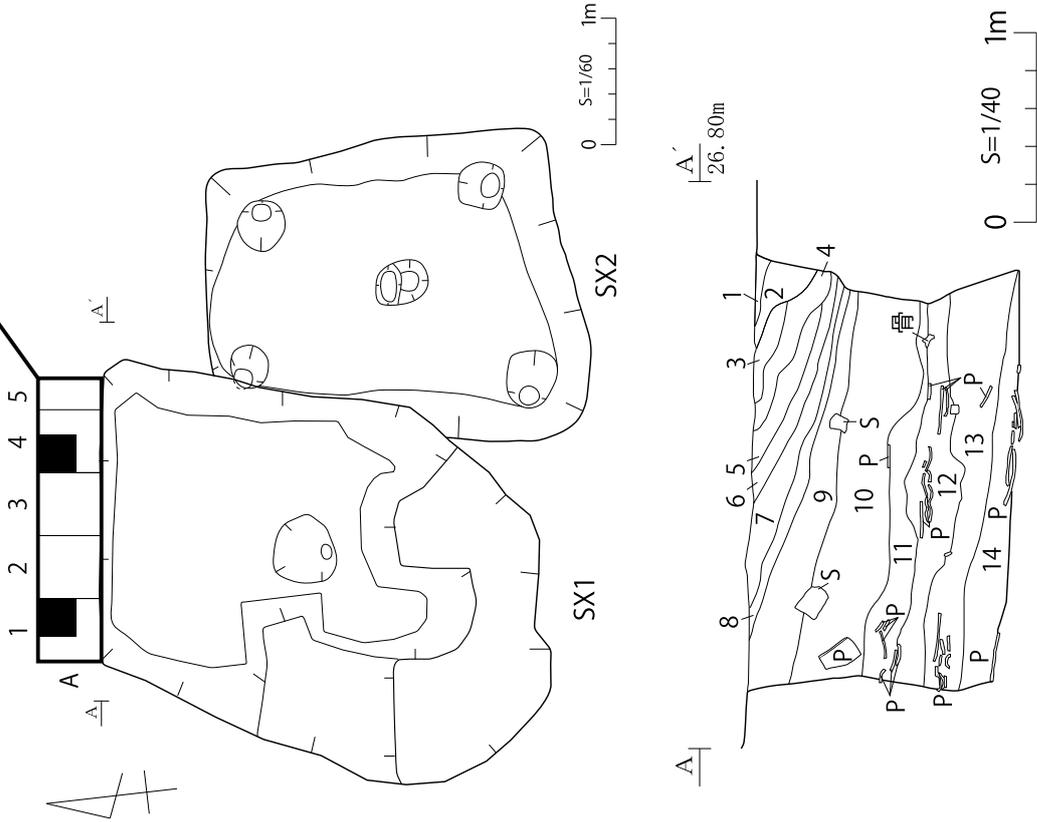
平成26年度調査トレンチ



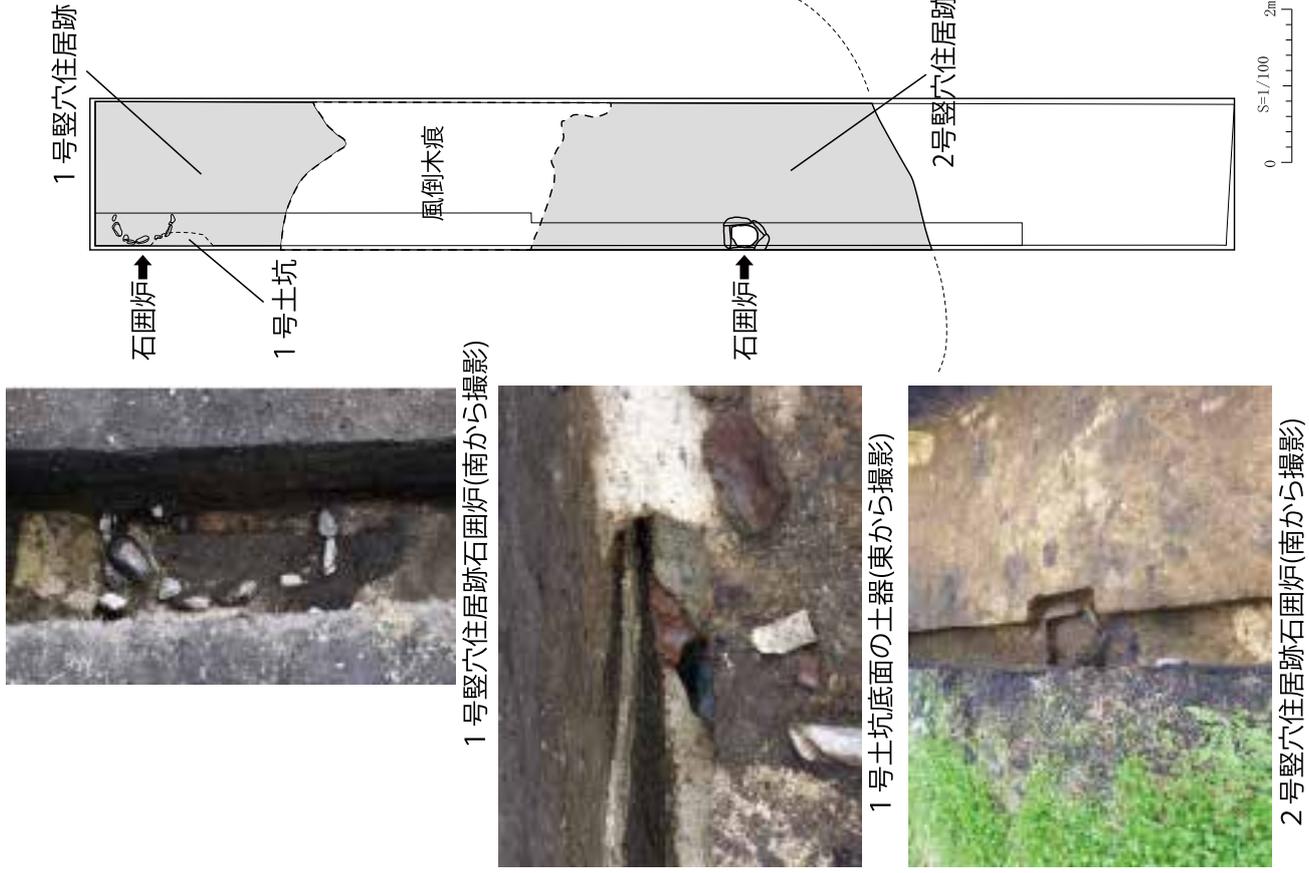
第2図 「一王寺貝塚」の内容確認調査トレンチ配置図

調査区: $0.5 \times 2.5\text{m} = 1.25\text{m}^2$
 クリッド: $50 \times 50\text{cm}$

今年度調査範囲



- 1から9層: 縄文時代中期 (今から約4,900~5,100年前)
- 10層: 縄文時代前期 (今から約5,200~5,300年前)
- 11から14層: 縄文時代前期 (今から約5,500~5,800年前)
- 14層より下: 中坵浮石層 (今から約5,900年前に降下)



1号竪穴住居跡石囲炉(南から撮影)



1号土坑底面の土器(東から撮影)



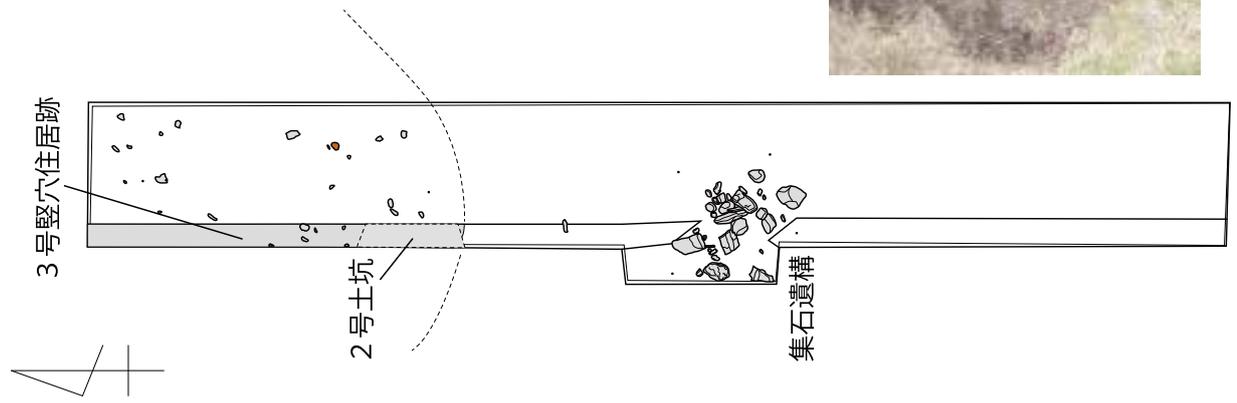
2号竪穴住居跡石囲炉(南から撮影)



3号竪穴住居跡(北から撮影)



集石遺構(南から撮影)



第3図 昭和32年史跡指定地南側の内容確認調査トレンチ配置図